

## <宮崎地方気象台>大淀川・小丸川水系流域治水協議会

計画：「水災害の自分事化」と流域に視野を広げることに関する令和5年度取組計画を①②③の別に記入(横断可)

流域にも視野を広げる  
(自分のためにも、みんなのためにも)

### 連携活動

- メディア取材、出演による水害への啓発や気象台が発表している情報等の説明

### 水災害、流域治水の広報

- 気象台HP(ピックアップ情報)で、水害等に関する啓発を実施

### 教育活動

- 自治体担当者へ防災気象情報への理解を深めていただくための取組として、防災気象情報を基に避難情報発令等の防災対応を疑似体験する気象防災ワークショップ等を実施
- 学校と連携した、防災教育ツールの検討
- 小中高校や消防学校への防災教育や流域治水などに関する出前講座の開催
- 自主防災組織等からの依頼による防災講話

### リスク情報等の提供

- 大雨(浸水・土砂災害)、洪水に関する情報等の提供

### 水防活動の支援

- 自治体を実施する防災訓練への参画
- 関係機関と自主防災組織等が連携した要配慮者等の避難訓練への協力

### 訓練活動

#### ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

#### ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

#### ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

#2 <宮崎地方気象台>大淀川・小丸川水系流域治水協議会

取り組み・主対象	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
<b>① 知る機会を増やす</b> <b>◎連携活動</b>   地域   個人   企業・団体   <b>◎水災害、流域治水の広報</b>   地域   個人   企業・団体	メディア取材、出演による水害への啓発や気象台が発表している情報等の説明			
	気象台HPで水害に関する啓発活動を実施			
<b>② 自分事と捉えることを促す</b> <b>◎教育活動</b>   地域   個人   <b>◎リスク情報等の提供</b>   地域   個人   企業・団体   <b>◎訓練活動</b>   地域   個人	自主防災組織等からの依頼による防災講話や気象防災ワークショップ、県との連携による研修会等			
	学校への出前講座や、学校と連携した水防災教育ツールの検討			
	土砂災害、浸水害、洪水災害の危険度の高まりを面的に確認できる「キキクル（警報の危険度分布）」を気象庁HPで提供			
関係機関と自主防災組織等が連携した要配慮者等の避難訓練への協力				
<b>③ 行動を誘発する</b> <b>◎水防活動の支援</b>   地域   個人   企業・団体   <b>◎水災害対策の支援</b>   個人   <b>◎計画策定</b>   地域   個人   企業・団体	重大な被害が発生又は発生が予想される場合に、県や市町村の災害対策本部等へ気象台職員（JETT：気象庁防災対応支援チーム）を派遣し、気象解説等を実施			

# <宮崎地方気象台>大淀川・小丸川水系流域治水協議会

結果報告: 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入(横断可)。

流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

## 連携活動

○大雨や台風接近時には、メールやホットラインにより注意・警戒を呼びかけるほか、台風説明会(報道向け・自治体関係者向け)を実施



(河川国道事務所と気象台による合同説明会の様子)

## 水災害、流域治水の広報

○気象台HP(ピックアップ情報)で、水害等に関する啓発を実施

## 教育活動

○防災気象情報の利用普及を図る取組として、自治体担当者を対象にオンラインツールを活用した勉強会や定時気象解説を実施



○佐土原高校が開発する防災アプリ「SHS災害.info」について、気象台では助言や提案などの支援を実施



## 水防活動の支援

## 訓練活動

○自治体が実施する防災訓練への参画  
○関係機関と自主防災組織等が連携した要配慮者等の避難訓練への協力

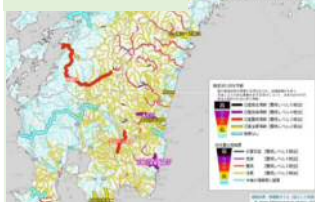
## リスク情報等の提供

### 線状降水帯



○「顕著な大雨に関する気象情報」大雨による災害発生の危険度が急激に高まる中で、線状降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を解説

### 洪水キキクル



○半日程度前の呼びかけ(予測)線状降水帯が発生するおそれが高まった場合、半日前～6時間前を目安に気象情報の中で呼びかける

○「キキクル(危険度分布)」災害の危険度を「早い段階から」「地域をより絞って」情報を伝えるため、浸水や洪水、土砂災害の危険度を5段階で発表

## ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

## ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

## ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える